
74巻2号

2019年4月1日

YAA 天文会報

(4~6月号)

780号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会

横浜でバラ星雲を撮影



撮影：山形幹夫

観望ガイド

正本

平成最後の桜が満開となり、4月1日には新たな元号が発表されます。そして4月は学校や多くの企業で新年度を迎えます。いろいろな旅立ちの季節です。

さて、新年早々の部分日食は、私の自宅では天気に恵まれず見ることはできませんでした。しかし、1月31日の明け方に月が木星に接近、翌2月1日には金星に近づく様子を撮影できましたので次ページに載せます。元データでは画面の右端にさそり座のアンタレスも写っているのですが、会報の画像では再現できないと思います。

冬の星座は西に傾き、春の星座に主役が移りつつあります。同時に冬と違って空気中の水蒸気が増えてくるので、空全体が霞んだようになってきます。星空がぼんやりしてしまうのが残念です。

まず4月2日の明け方、月齢26の月と金星が接近します。そして翌3日には月齢27の月が水星に近づきます。しかし薄明が始まっており、高度も非常に低いいため、東南東の視界が開けた場所で探してみてください。同じころ、宵の西空では火星がプレアデス星団の近くで輝いています。プレアデスの青い星たちと火星の赤の色の対比が面白いと思います。12日に水星が西方最大離角となりますが、このころの明けの空には、火星以外の惑星（水・金・木・土・天・海）が揃っています。

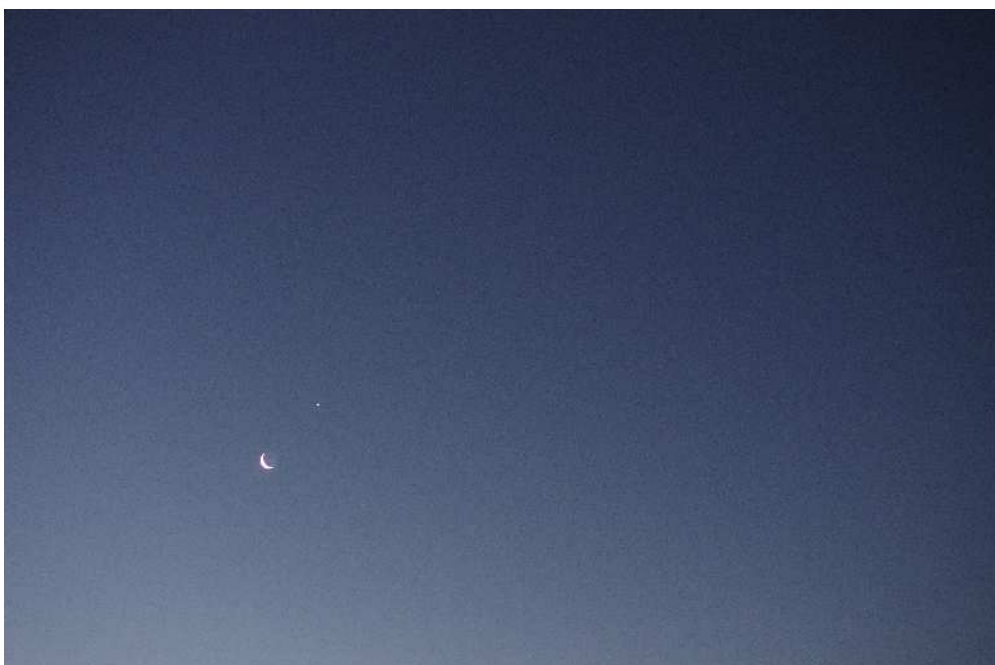
5月は6日にみずがめ座 η 流星群が極大となります。今年は5日が新月ですから、天候にさえ恵まれれば条件は最高です。さらに母天体のハレー彗星からのダストトレイルの一つが7日明け方に地球軌道へ接近という予報もあり、例年より多くの出現が期待されています。この流星群は、痕を残す割合が多く、速度の速い流星が特徴で、明け方近くになっても放射点の高度が低いいため、長い経路の流星を見ることがもできます。

6月になると梅雨の季節になりますが、11日に木星が衝、月末の24日には水星が東方最大離角となり、特に18日から20日は日没後の西空で今年一番の高度となります。近くに火星も光っていますので、まずは双眼鏡で水星の場所を確認し、それから裸眼で見るようにすると探しやすいと思います。

【4月例会】

4月20日（土）18時00分～19時30分

東戸塚地区センター2F 小会議室



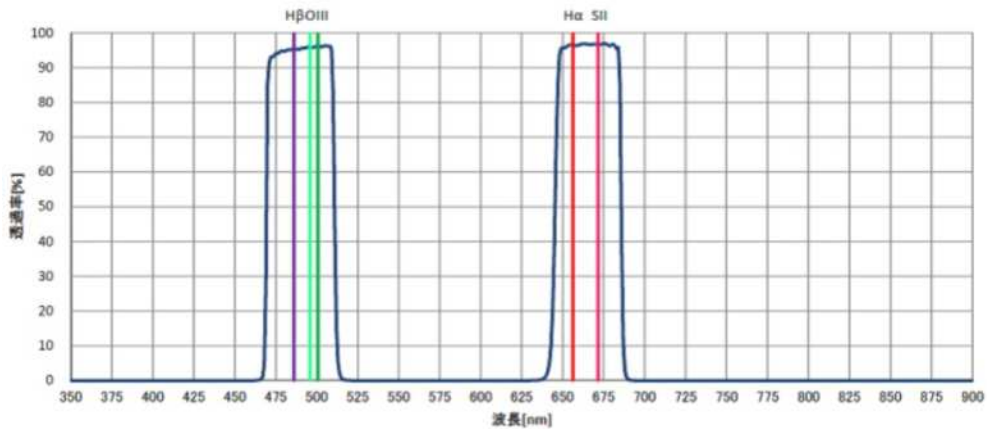
(上) 金星-月-木星
2019年1月31日05時16分
ISO1600,露出1/25sec

PENTAX K-5IIs / f2-43mm

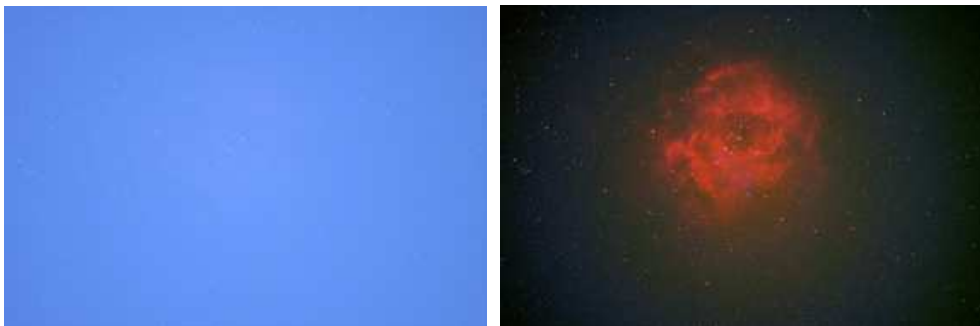
(下) 月-金星-木星
2019年2月1日06時13分
ISO1600,露出1/30sec,

(正木自宅にて撮影)

今年に入り幾つかの新機材が始動しました。まずは光害地で天体を撮影する時に余分な市街光をカットするクワッドバンドパスフィルターを使用してバラ星雲を撮影してみました。このフィルターは下図のように連続する光の波長のうち天体の輝線4種類部分を透過し、その他は透過しないという分光特性です。撮影データですが、望遠鏡はタカハシのFSQ-85EDP(f455/5.4)、カメラはNikon D810A 感度ISO3200 30×20mmサイズ保存、90秒×2枚をコンポジット後画像処理。撮影地は横浜市西区の自宅前、住宅地ですが街路灯が煌々と点いている所です。



分光透過率特性（出典：望遠鏡販売店・趣味人Web Site）



左は撮影したままの画像、真っ青です。右はそれを画像処理したもの。私の能力では赤色のカブリを除去できません。

光害もあまりにひどすぎるとこのようなフィルターを使用しても効果は限定的と考えられます。以前夏の観測会を行った長野県東御市のペンションの辺りでも昨今は光害の影響があり、友人はこの手のフィルターを使用する場合がありますと言っています。私の家の辺りではナローバンドパスでないと駄目かなと思います。

尚、新規購入のFSQ-85EDP望遠鏡＋フラットナーの星像は大変秀逸です。

【表紙の写真】バラ星雲 撮影2019年3月8日 右上の画像を白黒化したもの

太陽黒点

観測者：藤森 賢一（諏訪）機材：8cm屈X67 15cm投影

日	2018年12月					2019年1月					2019年2月				
	N		S		全	N		S		全	N		S		全
	g	f	g	f	R	g	F	g	f	R	g	f	g	f	R
1	0	0	0	0	0	望遠鏡故障により、2019年1月～3月を欠測致します。 藤森 賢一									
2	0	0	0	0	0										
3	-	-	-	-	曇										
4	-	-	-	-	曇										
5	1	4	0	0	0										
6	-	-	-	-	曇										
7	-	-	-	-	曇										
8	0	0	0	0	0										
9	-	-	-	-	曇										
10	0	0	0	0	0										
11	0	0	0	0	0										
12	0	0	0	0	0										
13	0	0	0	0	0										
14	0	0	0	0	0										
15	0	0	0	0	0										
16	0	0	0	0	0										
17	0	0	0	0	0										
18	0	0	0	0	0										
19	0	0	0	0	0										
20	-	-	-	-	曇										
21	0	0	0	0	0										
22	-	-	-	-	曇										
23	-	-	-	-	曇										
24	0	0	0	0	0										
25	0	0	0	0	0										
26	-	-	-	-	欠測										
27	0	0	0	0	0										
28	0	0	0	0	0										
29	0	0	0	0	0										
30	0	0	0	0	0										
31	0	0	0	0	0										
平均	0.6		0.0		0.6										

日月星の伝承を訪ねて (59)

横山好廣

信州の星 ⑥

松本市内での聞き取りを中心に報告したい。

- 1983年8月7日 長野県松本市中央2-8-12 「川井人形店」にて
店内に衣文掛けのようなものに着物を着せた七夕人形を飾ってあったので、厚かましくも店に入り、七夕のことを尋ねた。
 - ・七夕-----6日 「ほうとう」を供え、ゴマ・きな粉・餡子などを「ほうとう」にかけて食べた。
 - 7日 「おやき」を供える。「おやき」とは七夕饅頭のことで小麦粉を蒸したものだそうである。

*七夕人形には、お宮参りの掛け着物を着せるのが正式であるという。なお、川井人形店の人形の顔は、松本市深志に在住の工芸家・面屋である田中徳斉氏の筆による由であった。恐らく高名な方であろうと推測した。
- 1985年8月8日 同 上 「川井人形店」にて
 - ・月待-----縄手の四柱(しはしら)神社で、「お立ち待ち」と云って、境内の石燈籠に灯明を立て、月に願いをかけるまでは座ってはいけないと云われていたので、月が出て来るまでずっと立ちながら待っていた。
 - *恐らく、二十三夜待のことではないかと思うが未確認である。
 - ・二十三夜待(?)
川井人形店の祖先である戸田藩士・川井八郎清長が宿番のときに夢枕に朱の袴に白い着物の女神立って「民百姓が飢饉で苦しんでいる。三石三斗三升三合三勺の米を神に捧げ舞をすれば豊かになる」と八郎に告げられた。「三」が重ねて出てくることから、二十三夜のお祭りの始まりを云っているのではないか、ということであった。
 - *しかし、諸資料を見ると、この話は松本城の二十六夜神の祭りに関する伝説と酷似していて、話者が二十六夜と二十三夜とを混同されたのではないかと推察する。松本城天守6階には二十六夜神を祀り、二十六夜神祭を今でも行っているようである。松本城主の戸田氏は上州・高崎から元和3年(1617)に入封しているが、そのさいに関東の月待信仰を松本に持ち込んだのではないかと云われている。
- 1983年8月3日 長野県松本市浅間温泉 「枇杷の湯」当主 小口隆章氏
8月6日 大糸線車中で偶然、「枇杷の湯」親戚筋の小口滋郎氏と対話
◎3日と6日の分をまとめて掲載する。

- ・七夕-----6日朝、竹を1本用意して、百人一首からとった歌を書いた短冊と人形(ひとがた)の七夕人形に新しい紙で作った紙衣を着せ、男女一対にして竹に吊るした。紙衣は毎年作り、男の方は青色系、女の方は赤色系にした。

8日 竹の枝を下ろしてから川に流した。

*竹・供え物・短冊・紙衣などの後始末についての確認をしておらず、未熟な調査であった。人形は、長さ 20 cm位の細い角柱に目鼻口を描き、簡単な手足を付けたもので、これは流さずに毎年使うそうである。小口家の年季の入った七夕人形を見せて貰った。

- ・月見-----十五夜・十三夜・十日夜。

野菜、ススキ、団子、ご馳走を供えた。

枝豆は盗んでも良い。

*三月見(さんつきみ)の習俗を確認することが出来たが、農家の供え方と違い簡素化されている印象を抱いた。「スゲボウズ」の言葉は聞けなかったが、畑のものを盗って良いという習俗には、団子付きと違った意味がありそうだ。

- ・月待-----昭和 10 年(1935)頃の話として、縄手にある四柱神社で月の出を待ち、月が出てきたら願い事を拝んだ。

*「川井人形店」で聞いた、「お立ち待ち」と同じであろう。また、このことは「お立ち待ち」が松本城下にとどまらず、近郷にまで広がっていたことを物語っている。

- ・金星-----ヒトツボシ

アケノミョウジョウ・ヨイノミョウジョウ

●1986 年 8 月 9 日 長野県南安曇郡三郷村温 帯刀家のご内儀は浅間温泉出身ということなので、浅間温泉の記憶を此处に記載する。

- ・七夕-----7日 お膳や桝など、普段洗うことのないものを川で洗った。7に因んで7回洗うと良いとされた。顔も7回洗うと美人になると云われた。笹竹の短冊は取りまとめて軒先に掛けておくと魔除けになると云われた。

●1989 年 8 月 19 日 長野県松本市中条 草間家にて

- ・七夕-----当主になってから、子どもの着物を人形に着せて軒先に吊るし、笹竹に短冊に願い事を書いて吊るしている。

*以前はどのような形で七夕をしていたのであろうか。

- ・月見-----「十日夜」には斗桝に藁を敷き鏡餅・葉付き大根供や野菜を入れて縁側に供える。「大根の年取り」と云って大事な行事。農作物の収穫に対する感謝の気持ちを表していると云う。

(つづく)

天 象

相原 榮

4月

水星: 明け方の東天 上旬は観望好期 +1.1~-0.3等 うお座
金星: 明けの東南東天で高度を下げる -4.0~-3.9等 みずがめ→うお座
火星: 宵の西天 夜半前に沈む +1.4~+1.6等 おうし座
木星: 夜半前に昇り明け方南中 -2.2~-2.4等 ヘビつかい座
土星: 夜半頃南東天に昇る +0.6~+0.5等 いて座

2日 明け方の東南東天低空で月と金星の接近	13日 04h06m 半月(上弦)
3日 明け方の東南東天低空で月と水星の接近	19日 20h12m 満月
5日 10h51m 清明 17h50m 新月	20日 17h55m 穀雨
9日 宵の西天で月と火星の接近	23日 21h 4月こと座流星群が極大の頃 深夜の南東天で月と木星の接近
	26日 未明の南東天で月と土星の接近
	27日 07h18m 半月(下弦)

5月

水星: 明け方の東北天で高度を下げる -0.3~-2.3~-1.1等 うお→おうし座
金星: 明けの東天低空 -3.9等 うお→おひつじ座
火星: 夕方の西天 +1.6~+1.7等 おうし→ふたご座
木星: 宵に昇り夜半過ぎに南中 -2.4~-2.6等 ヘビつかい座
土星: 夜半前に昇る 夜明け前南中 +0.5~+0.3等 いて座

5日 07h45m 新月	21日 16h59m 小満
6日 04h03m 立夏 11h みずがめ座η流星群が極大の頃	深夜に月木土星の大接近
12日 10h12m 半月(上弦)	23日 未明の南天で月と土星の接近
19日 06h11m 満月	27日 01h34m 半月(下弦)

6月

水星: 夕方の西北西天 観望好期 -1.1~+1.1等 おうし→ふたご→かに座
金星: 明け方の東北東天低空 -3.9等 おひつじ→おうし座
火星: 夕方の西天 +1.7~+1.8等 ふたご座
木星: 夕方昇り夜半に南中 観望好期 -2.6等 ヘビつかい座
土星: 夜半に昇る 観望好期 +0.3~+0.1等 いて座

3日 19h02m 新月	19日 夕方の西北西天で火星と水星の大接近
5日 夕方の西北西天で月と火星の接近	22日 00h54m 夏至
6日 08h06m 芒種	24日 夕方の西天で水星が見やすい(最大離角)
10日 14h59m 半月(上弦)	25日 18h46m 半月(下弦)
17日 17h31m 満月 未明の南天で月と木星の接近	28日 18h 6月うしかい座流星群が極大の頃